



早川町赤沢宿・安らぎの里ウォーク

2018.09.23 13km ゆったり 7.5km

コースの概要

南アルプスプラザでトイレと体操を済ませてウォーク開始です。赤沢宿までの約2.5kmはやや急な上り坂です。右手に春木川、左手に苔むした石垣を見ながらゆっくりと上ります。殆どが木陰ですから涼しい道です。上り坂が苦手な方はスタート地点から赤沢宿までタクシーで移動することができますのでバスの中で希望を伝えてください(運賃400円は個人負担)。南アルプスプラザに着いてからでもOKです。赤沢宿では石畳の坂を妙福寺付近まで上り、ここで一旦解散します。赤沢宿マップをお渡ししますので石畳周辺を各自散策してください。道がわかりにくいので、石畳周辺からあまり離れないようにしてください。集合場所は「宿の駅・清水屋」です。WCも清水屋にあります。解散するときに集合時間を周知しますので時間に遅れないように集まってください。なお、石畳は非常に滑り易いので足元には十分注意願います。清水屋では飲み物やソフトクリームなども販売していますのでご利用ください。赤沢宿から昼食場所の羽衣白糸の滝/七面山上り口周辺までは緩やかな下り坂が続きます。昼食休憩時間に各自「白糸の滝」、その先にある「雄滝」を見学してください。昼食後はほぼ平坦な道を南アルプスプラザまで戻り、トイレ休憩になります。ここでもアイスクリームや地場産品が販売されていますのでご利用ください。休憩後は早川の左岸ウォークになります。今度は早川を右に見ながら車の通らない道を歩きますが、左側斜面からの落石の危険性がありますので、右側通行しましょう。約3kmの道を歩き、早川にかかる橋を渡って右折した先の早川SS前がゴールになります。左岸ウォークを希望しない方は南アルプスプラザで時間を過ごしてください。普通コースメンバーがゴールに近づいた頃、バスが迎えに行きます。帰路では完成したばかりの道の駅なんぶに寄ります。

参加者の皆様へ

- ・無断で単独行動をとらないようにしてください。
- ・主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- ・スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- ・原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- ・一般道を横切の場合は、役員の指示に従ってください。
- ・体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

緊急時連絡

佐野照美 090-3584-5522

増田敏幸 080-2612-4825

このウォークでは、バスで移動中も、ウォークの途中でも昼食を調達する場所はありません。

熱中症に注意！

ウォーク中は多めの休憩をとるようにしますが、各自水分と塩分を十分に補給するようにしてください。
少しでも調子が悪いと感じた時には遠慮することなく周囲の人に伝えてください。

早川町

早川町は山梨県の南西端にある町で、長野県や静岡県と県境を接する。原発事故などによる影響を受けている福島県内の町を除く、自然人口として日本で最も少ない「町」であるとともに、山梨県内の町としては最も西にあたる。「日本で最も美しい村連合」の一つ。

コース

往路(バス)

富士宮駅＝南アルプスプラザ(体操・WC)

8:00 9:30～50

ウォーク

南アルプスプラザ…赤沢宿(WC・散策)…羽衣白糸の滝(昼食・WC)…

9:50 10:50～11:30 12:10～13:00

南アルプスプラザ(WC)…早川町役場…早川左岸…

14:00～30

県道 37 早川 SS 前(ゴール)

15:30

* ゆったりは南アルプスプラザからタクシー(400円/人)で赤沢宿まで
角瀬タクシー 0556-45-2062

* 早川左岸ウォークは希望者のみ

復路(バス)

早川 SS 前＝道の駅なんぶ(WC)＝富士宮駅

15:30

16:00～20

17:30



次回申込(昼食場所で)

伊豆急全線16駅ウォーク(V)

☆期日 10月7日(日)

☆集合 富士宮駅南口 7:00

☆参加費 4200円

☆〆切 10月2日(火)

羽衣白糸の滝とお万の方像

身延山久遠寺七面山奥の院・七面山参詣道入口付近に架かる羽衣橋の手前に落差33mの滝がある。そのそばに修行姿の女性像が立ち、近くには弁天堂が祀られている。この像は、徳川家康の側室だったお万の方で、七面山の女人禁制を解いたことで知られる。お万の方は、当時、七面山が女人禁制だった矛盾をはらすため、1640年、21日間、この滝で身を清め、さらに女性で初めて登詣をした。これによって、お万の方は女人踏み分けの祖と呼ばれている。今でもこの地は、熱心な信者が心身を清めるために修行を行う神聖な場所となっている。

赤沢宿

赤沢宿は山梨県南西部の早川町南部、南アルプスの南東端に位置し、富士川の支流である早川の更に支流、七面山に源をもつ春木川右岸の標高500～600メートルにかけての急斜面山腹に集落を形成している。東に身延山(標高1148m)、春木川をはさんで西に七面山(標高1982m)など1000m級の山々に囲まれ、身延山から七面山参拝へ向かう参拝ルートの中に位置している。本来このような急斜面の地形の土地に集落が形成されることは少ないが、江戸期に参拝客の増加に伴い講中宿と呼ばれる宿泊施設や参拝に関連した生業が営まれたことによって、他に例を見ない集落形態を作った。日蓮宗の総本山である身延山と、同じく日蓮宗の霊山である七面山とに参拝する客の宿場として栄えた。集落は重要伝統的建造物群保存地区として選定されている。重要伝統的建造物群保存地区として選定された現在でも、集落へ向かう車道は山肌を這うような見通しの悪い狭い道路で、大型車はおろか乗用車でさえ擦れ違いが困難である。